

- 1 配置確認
- 2 ベース型枠建て
- 3 遣り方
- 4 根伐り(掘削)
- 5 立上り型枠解体
- 6 割栗石式
- 7 目潰し砂利敷き・転圧
- 8 捨てコンクリート打設
- 9 立上りコンクリート打設
- 10 防湿シート敷き
- 11 墨出し
- 11 墨出し
- 12 埋め戻し
- 13 ベース型枠解体
- 14 ベースコンクリート打設
- 15 アンカーセット
- 16 床付け
- 17 立上り型枠組み立て
- 18 鋤取り
- 19 盛土
- 20 土壌処理
- 21 残土処分
- 22 鉄筋組立
- 23 地業工事
- 24 スリープ設置
- 25 実管配管
地盤調査

土地の中の建物の位置を確認する。

ベースコンクリートを打設するための型枠を組み立てる。コンクリートを打設するとき、圧に流されないように固定する。建物の正確な位置と高さを出すために、基準を設ける。KBM(仮ベンチマーク)からの高さの追出し、遣り方基準寸法からの位置の追出し)

基礎の底部の高さまで土を掘る(地盤が高いとき)

必要な養生期間を置いてから、型枠を解体する。

建物の重さを地面に均等に伝えるために大き目の石を敷いていく。シオパルスでは行わない。

割栗石の隙間を小さめの石や砂利で埋め、後で地盤が下がらないように、ラジマー・グレートなどで締め固める。

基礎コンクリートの墨だしや、水平をとるために敷く。基礎の強度には関係ない。

コンクリートを流し込む。パイプリーダー等を用いて隅々まで行き渡るようにする。型枠が広がったり倒れたりしないように気をつけ

土の中にある水分が、建物に上がってこないように防湿シート(ビニール)を敷く。

コンクリートを打つために型枠を組むために、型枠のラインや、基準芯をコンクリートの上に墨で書く。墨壺を用いて糸で弾く。

コンクリートを打つために型枠を組むために、型枠のラインや、基準芯をコンクリートの上に墨で書く。墨壺を用いて糸で弾く。地盤より低い部分の土を埋め戻す。

コンクリート硬化後、型枠をはずす。目安の強度は 10N(ニュートン)

ベース部分のコンクリートを打設する。設計基準強度に適合したコンクリートを発注する(配合計画書で確認)。底の高さが違う場合は低いところから打設する。打設の際はパイプリーダーで隅々までいきわたるようにする。

アンカーを固定する。コンクリート打設時にコンクリート圧で流されないようにきちんと固定すること。

砕石底の高さで、土を水平にして固める。

立上り部分の型枠を組み立てる。鉄筋とのかぶり厚が確保されているか注意する。

基礎の地盤までの高さを調整する。

基礎の底部の高さまで土を盛る(地盤が低いとき)

防蟻・防虫処理のこと。白蟻などの被害を出さないように事前に行う。

余った土を処分する。

図面にあわせて鉄筋を組み立てる。型枠からのかぶり厚さや、鉄筋の継ぎ方に留意する。

杭工事や表層改良など、地盤が悪い場合に施工する。地盤を補強するための工事。(コンクリート杭、鋼管杭、砕石杭、表層改良な

コンクリートが固まった後、設備配管や電気配線を通すために、コンクリートを打設する前にあらかじめ穴を開けておく(パイプなどを

入れてコンクリートが流れ込まないようにする)

設備配管を施工する。
建物を建てるために必要な強度があるかどうかを確認する(ボーリング、スウェーデン式サウンディング、標準貫入試験等)